

明治天皇の大坂行幸で始まった洋式病院と西洋医学講義録の出版

中 室 嘉 祐

徳川慶喜の大政奉還により王政復古となり、慶応四年三月二一日、明治天皇（一六歳）は京都御所を出発され、長い行列で大坂へ、翌二三日、行在所にあてられた西本願寺北御堂津村別院へお着きになり、以後四四日間毎日大坂各地を行幸された。この長い御滞在は一つには大坂遷都論への対策と当時日本一の経済都市大坂を徳川側より、新政府側へ傾斜させる策があったのであろう。明治天皇は連日大坂各地を詳しく視察され、この度の政変で街に溢れる難民や病人の姿に深く心を傷められ、病人救済の御沙汰を賜り、その翌日、京都へお帰りになった。これを受けて政府は緒方惟準に対し「当分大坂に在ってボードウインへ申候

仮病院並に医学伝習等の御用向、早速手始申す可き旨御沙汰候事 二月 行政官」の辞令、ボードウインに対し「当分仮病院に在勤し治療医学伝習等仰せ付られ候 二月 大阪府」の辞令が発せられた。早速大坂上本町四丁目の大福寺の建物を利用して、仮病院が開設された。職員は院長緒方惟準、教師と蘭軍医ボードウイン、通訳官三瀬諸淵、医員堀内利国、高安道純ら九名の名がある。ボードウインは毎朝講義を行い、すべての医師をその講筵に列席させ、次で入院・外来患者の診療に当った。一二月ボードウインの講義を邦訳し木版印刷し「大坂医学校官版・日講講記聞・蘭医ボードウイン氏口授」を刊行した。大福寺本堂前の階段にボードウインを中心に和服ハカマ姿帯刀の医学生約六三名の集合写真が残っている。

明治三年二月、大福寺の北約一軒の鈴木町代官屋敷跡に建築中の大坂医学校病院が竣工し大福寺より移転した。六月ボードウインの任期満了し、後任に蘭医エルメレンスが着任し、ボードウイン同様、熱心に診療と医学教育を始めた。

明治五年九月文部省は全国的な学制（学区制）改革を行

い、この国立医学校病院を廃校とした。初めて知った西洋医学の素晴らしさに、大阪府民は再建を大阪府に迫り、西本願寺北御堂の境内に、大阪府立病院（木造洋式二階建、診療局・医局・手術局・薬局・四八病室・一五〇床・講堂）を新築、明治六年二月一五日盛大な開院式を行った。院長高橋正純、教師エルメレンス、通訳三瀬諸淵、医員高安道純ら十数名があつた。その後の撮影であるが、西本願寺本堂前の大階段に、エルメレンス、三瀬諸淵らを中心に、和服ハカマ姿の医学生約二七〇余名の集合写真があり、医学教育の熱心が伺える。

開院当日エルメレンスの指導により、日本最初の洋式病院管理規則である「大阪府病院各局規則」が公布された。この規則には「医局規則、薬局規則、器械局規則等々のほか、入院患者給食規則があり、入院一〜五等の朝昼夕食の詳細な献立があり、入院患者給食を、安全、衛生的に行うための日本最初の入院給食管理規則もある。「日本の現行の集団給食書・栄養学書、医学書には『日本の病院給食は一九〇二年（明三五）の東京聖路加病院における直営の病院給食に始まる』とある」が、その二九年前（明六）

に、この府立病院に於てエルメレンス指導で、日本最初の病院給食が始められた。また政府が医・薬の制度を最初に定めた医制を東京京都大阪の三府に布達の前年に、この府立病院では、病院内医薬分業が、エルメレンスの指導により完全に実行され「医師の発行した外来入院処方箋を薬局に於て司薬生（薬剤師）自ら調剤し、如何に慣れた召使たりとも調剤製剤を行わずこと厳禁……」と定められて、日本における病院医薬分業、更に医薬分業の始まりとなった。

当時の大阪病院教授局規則「第四条、外国人教師の講義には日々怠り無く出席し精密に筆記して校訂を加え院長に差出し検閲を受くべし 第五条、毎土曜日には教師講義の筆記を校訂し四葉乃至五葉宛印刷して生徒及開業医師等望の者に授与すべし……」この様にエルメレンスは医学の講義録を「日講記聞双書」として次々木版印刷し、漢方医学時代、西洋医学を日本中に広めると共に、製本される毎に、宮城内 明治天皇に献上し「大切に保存せよと仰せられたのか」図書寮ではエルメレンスの日講記聞双書を木函に収め、防虫に多量の樟脳を添え、百余年の現在も新版同

様に保管されている。

近代日本の黎明期の医学者としては長崎養生所のボンペ・ボードウィン、大阪医学校病院のボードウィン・エルメレンス、東京大学のホフマン・ミユルレル等があるが、長崎、東京での医学は学生の筆記録の一部が残るのみで、全講義録はない。大阪だけは、明治天皇の御沙汰に感激してエルメレンスの医学双書が印刷、献上されて現在宮城内に大切に保管されている。（日講記聞双書、薬物学第二〇巻に、エルメレンスは「蛋白質、脂質、糖質、無機塩類の四大栄養素の重要性」を講述している。実に日本における栄養学講義の始まりである。これらから伺える様に、宮内庁に現存の医学書は、医学内容の正確さ、邦語訳の新鮮さはエルメレンスの偉大さ、協力した大阪病院上級医官・通訳官の医学力・語学力の卓越を物語っている。）

宮内庁に現在、エルメレンス著述の日講記聞双書等多数が新品同様に大切に保管されているのは、一つに明治天皇の病人を救済せよとの御沙汰と、これに感激して、出版・献上した大阪病院当局の賜物である。

阪大医資料館には虫食いの教冊（医学伝習百年史年表写

真）が保管されている。

今、大阪大学医学部は中之島から吹田地区へ移転中であるが、宮内庁はこの貴重な図書の完全複写を許されているので、複写製本して医学部資料館と図書館に保存されれば、現行の活字の医学書の沿革、起源等の改訂にも役立つし、中之島から吹田の医学部前に移転した巨大なエルメレンス記念碑と共に、エルメレンスは遙かに地下で飲ばれるであろう。

（奈良佐保女学院短期大学）